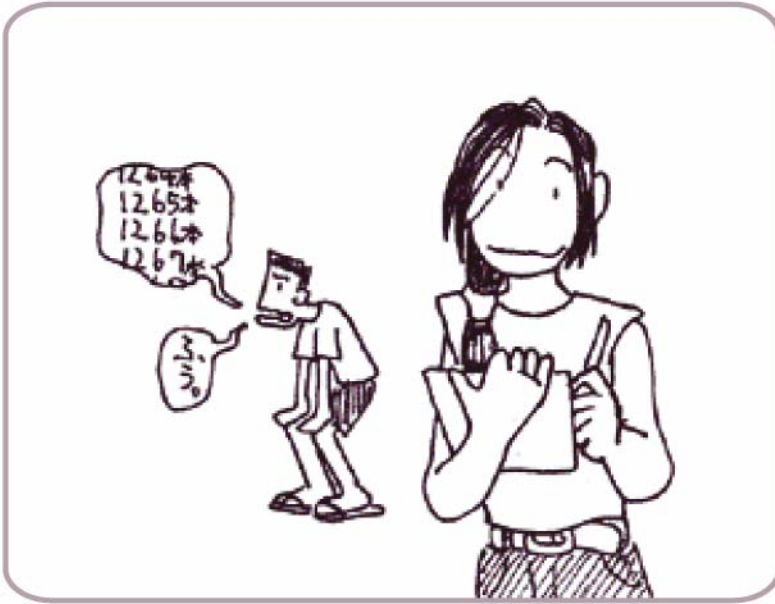


森を計る・森を数える



たとえば、森林に生えている木の
本数や、何匹のセミが生まれたか
とかを調べるのは可能でしょうか。
何ヶ月もかけて一つ一つ捕まえた
りしながら数え続けるのは、不可
能に近い気もします。
でも、それほど苦勞せずに数える
方法があるということ、知ってい
ますか？

プログラムの流れ

時間(目安)	内容	用意する物
0:00	<p>※例：森林の木を数える 「森林には何本の木が生えているの だろう。みんなで数えてみよう！」</p> <p>●考えてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやったら森林の木の数を全部 数えられるのか、子ども達に考え させてみる。 ・また、これから行く森林にどれだ けの本数の木が生えているのか予 想してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙、鉛筆
0:20	<p>●活動①森林で木を数える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定範囲(20m×20mくらいが良 い)の木の本数をグループごとに 数える。 <p>※セミの場合は一定範囲の中からセ ミの抜け殻を一つ残らず集め、数 える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数える範囲を囲 むためのロープ (グループ分) ・セミの抜け殻を 収納するケース ・記録用紙、鉛筆、 クリップボード
1:20	<p>●活動②室内で計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室に戻って数えた木の本数を基 に、あらかじめ調べてある森林の 面積と照らし合わせて木の本数を 計算する。 ・各グループのものを平均して一つ の答えを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の森林面積 データ、あるい は行政区の森林 面積データなど ・電卓 ・計算用紙、鉛筆
1:50	<p>●まとめのレクチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の木の本数は予想通りだっ ただろうか。多い？少ない？ ・生き物の調査はこのように行われ ることが多い。 	
2:00	<p>終了</p>	

この活動のねらい

- ・森林に生き物がどれだけいるのか、ものがど
れだけあるのかをイメージする。
- ・数量調査の方法について知る。

達成目標

- ・一部の数量から全体の総量を把握できるよう
になる。
- ・調査方法について知る。またはこのような調
査方法を想像できるようになる。

関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：5年算数

目標(2)(4) 内容B-(1)D-(4)

単元名：「面積の求め方を考えよう」

「くらべ方を考えよう」

指導要領：5年社会 目標(2) 内容(4)

単元名：「わたしたちのくらす国土

—環境を守る」

適した時期

樹木については積雪のある冬～春先が活動し
やすいでしょう。その他については、対象と
なる生き物の活動する時期に合わせます。セ
ミ(エゾハルゼミ)でしたら、羽化が盛んな
6月がよいでしょう。

■ストーリーのある活動のポイント■

本体2：計算によって 全体の数を算出し、予測する。

あらかじめ森林管理署などに聞いて調べておいた森林の面積と照らし合わせて調査結果から全体の木の本数を計算します。

セミでも同じ手順で「セミの数」を割り出します。

※この計算は小学生には難しいので、電卓を使用させたり、計算式を与えたりします。

導入：森林の木を全部数える？

森林に生えている木の数を調べるためにどのような作業をするのか、もしかしたら全部木を数えるのではないかとはいくらい、不安な想像をさせておいてもよいでしょう。

セミの場合は全部のセミを捕まえるくらいに想像を膨らませておきます。

起承
転結

まとめ：リアルな調査方法

計算結果から、最初の予想と違うかどうかを聞いてみます。

また、住んでいる行政区の全体の木の本数や、北海道全体の木の本数などが、発行されている統計資料などから算出できるので、あらかじめ計算しておいて感想を聞くのもよいでしょう。

生き物の生息数調査がこのような手順で進められるものだという話しておきましょう。

本体1：木の本数を 実際に数える。

範囲を決めてその中の木の本数を数えます。20m×20m程度が適当ですが、大きさは計算しやすい面積で、なおかつ子ども達に適度な達成感のある大きさがよいでしょう。

セミの抜け殻探しは大変なので、5m×20mなど、範囲を狭くするのがコツです。

ちゅっつワンポイント 授業のための+α

一部の情報から、全体を予測する、という数学的な考え方を体験的に学ぶよい方法だと思います。「この活動を行ったお陰で、算数が実際に現場で生かされているという『生きた学び』の楽しさを実感できた」と小学校の先生からも好評でした。

「森林の木を全部数えるなんて」と、一見無理そうなことも、

考え方ひとつで何とかなる、という発想の転換を促します。

自分達の数えたものから、どんどんと天文学的な数字が出てくるところがダイナミックでも楽しいところですから、その瞬間を大いに盛り上げていきたいところです。多少計算が間違っているにせよ、大きな数の楽しさを味わいましょう。中には「この計算は間違っている。やはり一本ずつ数え

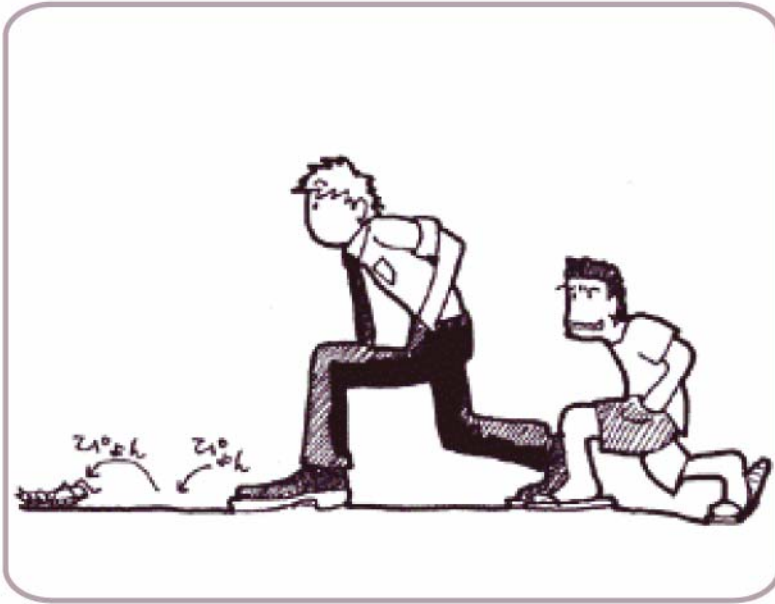
ないと、正確な数とは言えません」という子もいるものです。

今回のこの活動はあくまでも「おおよその数」だということを念頭において進めるのがコツです。



計算して木の本数を算出。サンプル数が多いとそれだけ正確な数字がでできます。

むしはどこから？



かつての子ども達は、経験則からどんな虫がどんな場所に住んでいるのか突き止めたものでしたが、虫たちと接する機会の少ない現代ではその限りではないのかもしれませんが。

経験則から学んだ生き物にとって心地のよい場所「生息地」について遊びながら学ぶプログラムです。

プログラムの流れ

時間(目安)	内容	用意する物
0:00	<p>●なんでそこにいるの？</p> <p>動物や昆虫の写真を見せて、その動物がなぜそこにいるのかを考えてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が好きそうな動物の写真。
0:20	<p>●活動①虫を捕まえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 屋外で虫をつかまえる。虫は昆虫であってもなくてもよい。 生きたままで確保しておき、その虫について、どのような場所が好きそうなのか想像してメモを取る。この時点で一度集合してみんなで共有してもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 捕虫網、雨傘、紙コップなど、捕虫用具 記録用紙、鉛筆
0:50	<p>●活動②虫を放そう</p> <ul style="list-style-type: none"> メモを取ったら虫が弱らないうちに捕獲場所から適度に離れて放す。 放したら見逃さないように慎重に追いかける。 虫たちがどのような場所で落ち着くかを観察し、再び周囲の状況をメモする。その時に周囲の状況だけでなく、放した虫の様子も記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> 軍手 救急用品 虫眼鏡 記録用紙、鉛筆
1:10	<p>●まとめのレクチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな観察結果だったのかを集まって共有する。生き物にとってそれぞれ居心地がよい場所(生息地)があることを認識する。 (広い場所があれば)プロジェクトワイルド※より、「つながりひろがれ生息地」を行って生息地の大切さについて考えを傾けてもよい。 	<p>※プロジェクトワイルド</p> <p>人間社会と野生生物の生息地と環境の関わりについて学ぶためにアメリカで作成された教材。生態系に対する「責任ある気づき」を促す。</p>
1:15		
1:30	終了	

この活動のねらい

- ・生物には自分の生活に適した環境、すなわち「生息地」があることに気づく。
- ・虫について、じっくりと観察する機会をもつ。

達成目標

- ・「生息地」について理解する。
- ・その虫に適した採集方法をとれるようになる。
- ・虫と昆虫の違いについて説明できるようになる。

関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：生活科 目標(2) 内容(5)
単元名：「げんきにそだってね」

指導要領：3年理科 目標(1) 内容A-(1)
単元名：「チョウをそだてよう」
「こん虫をしらべよう」

適した時期

- ・6月～9月くらい。7月～8月中旬は、虫は多いが、蚊やアブなども多く活動しづらいかもしれない。

■ストーリーのある活動のポイント■

本体2：虫を逃がして追いかけてみよう

捕まえた虫を放し、ひたすら追いかけてみます。虫たちが落ち着いた行動を取り始めたら、周囲の状況と共にその様子を記録してもらいます。ひたすら追いかけることに意識を向けてもらいましょう。

導入：動物がいる理由を考えてみよう

見せる動物の写真は背景が写り込んでいることが重要ですが、かならずしも自然のものでなくても、動物園の動物など、子ども達が「なぜそこにいるのか」想像しやすいものをいくつか混ぜておくのもよいでしょう。

起承
転結

まとめ：生息地の大切さ

虫たちが落ち着く場所がある＝「生息地」が必要なことを、「家がなかったらどう思う？」といった問いかけとともに説明します。
また、それぞれの生息地が別の生き物の生息地を支えているという意味を込めて、プロジェクトワイルドの「つながりひろがれ生息地」というアクティビティを行うのもよいでしょう。

本体1：虫を捕まえて記録しよう

虫の採集の方法には色々あることも伝えます。ピットホールトラップなどを前日に仕掛けておくのもよいでしょう。捕まえる虫は動きがのんびりしている物の方がよいことも伝えておきましょう。捕まえた虫は形態も含めてよく観察し、暮らしぶりを想像させますが、そこで否定的なコメントを返してはいけません。

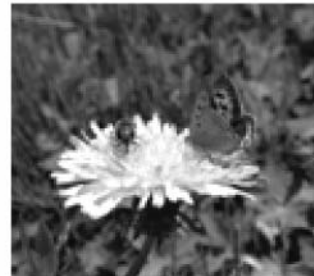
ちゅっ ワンポイント 授業のための+α

「虫を捕まえよう」という活動は、世の中でよくやられていますが、「つかまえた虫をにがして、しかもその後を追いかけてみよう」という活動はあまりやられないのではないのでしょうか。しかし、逃がした後を追いかける、というのは心湧き踊る楽しい活動です。

今日、とかくクワガタやカブ

トムシを手に入れることだけが子ども達の興味の対象になっているようですが、そこに、その他の多くの昆虫の世界を知らしめるよい機会になってくれればと思います。もちろん、数匹の昆虫が逃げていくあとを追いかけたところで、よっぽどのことがない限り明確なデータが取れて学術的な意義が出てくるわけではありません。が、セリフ回しにこだわることで「どんな昆

虫も、何かしら意図を持って動いている」ということに共感できると思います。



昆虫の居心地の良い場所はその時の昆虫の気分によっても違うのでしょう。

落ち葉を食べるの、誰？



普通に暮らしていると、土の中で何が起きているのか、考えることもありません。そこには私たちが生きていく上でも、とても重要な役割を持った生き物たちが大切な働きをしているのです。普段の授業では、そうした生き物を実際に観察することはあまりないかもしれません。

プログラムの流れ

時間(目安)	内容	用意する物
0:00	「森には落ち葉が毎年積もるけど、なんで落ち葉だらけにならないんだろう。それはなんと、地面の中に、落ち葉を片付けてくれる虫たちがいるからだ！」	
0:05	● そうじやさんを描こう どんな虫がいるのかを想像し、ワークシートに書き込む。	
0:30	● 活動① そうじやさんを探そう ・落ち葉が積もっていきそうな場所から土をすくい、ざるに入れる。 ・白い紙の上に土をふるい落とし、小さな虫を見つける。 ・見つけた虫は、ピンセットでシャーレに入れ、虫眼鏡で観察する。 ・他にも、いろんな場所でさがしたり、虫に名前をつけたりする。	
1:00	● 活動② そうじやさんは、葉っぱをどうやってそうじする? ・虫が食べた葉っぱを探す。 ・面白い形に食べている葉っぱをいろいろと探してみる。 ・集まって、見つけた葉っぱを見せ合う。	
1:15	● まとめのレクチャー 「最初に描いた虫と同じだった？」 ・虫たちが食べているから、森が落ち葉でいっぱいにならない ・虫たちは、土の中にもいる ・動物の死体も食べる→鹿の骨 ・ふんは、栄養たっぷりの土になる→作物を育てるには最適である	
1:30	終了	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート (虫の目や口や手足がどのような形なのか、書き込めるワークシートを準備) ・色鉛筆、マジックなど ・ざる、紙、ピンセット、水(あれば70%エタノール)を入れたシャーレ ・虫眼鏡(あれば実体顕微鏡) ・(また、あればツルグレン) ・最初のワークシート ・あれば動物の骨、おいしそうな野菜 など

この活動のねらい

- ・普段生活していると気づくことのできない「分解者」の存在に気づく。
- ・分解者の形態と生態、自然界の中での役割を学ぶ。
- ・落ち葉-分解者-自分のつながりに思いを傾ける。

達成目標

- ・生態学的地位における分解者の存在を知る。
- ・分解者の生態的役割を言えるようになる。
- ・分解者と自分との関わりについて言えるようになる。

関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：6年理科 目標(1) 内容A-(1)
単元名：「生き物のくらしとかんきょう」

適した時期

基本的に春から秋。雪が多少降っても土壌生物を観察することができる。また、積雪を掘って冬の土壌生物を観察するのも面白い。

■ストーリーのある活動のポイント■

本体2：観察した虫たちが どんな生態なのかを 想像してみよう

葉っぱに残る虫の食べあとだけでなく、虫の生活が分かるような物は、何でも話題にあげてみましょう。子どもたちの想像力をあますところなく刺激します。

導入：どんな虫が落ち葉を食べるのか、想像して描いてみよう

ワークシートを用意し、子ども達に好きなように想像して「落ち葉を食べている虫」の絵を描いてもらいましょう。そこでは口や眼、足、繁殖形態に目を向けてもらうようにすることがポイントです。「どんなところに住んでいるかな？何を食べているのかな？天敵はいるのかな？」などの言葉をかけてあげてもよいかもしれません。

起承 転結

まとめ：虫たちが果たす役割

肝心なのは、落ち葉と虫と自分たちがつながっているということを理解できるようにすることです。私たちが普段食べている野菜などを作るための豊かな土は、虫たちが生み出しているという例を紹介するのもよいかもしれません。

本体1：実際に掃除やさんを探してみよう

子ども達自身が工夫して土から小さな虫を集めて観察するように仕向けます。虫眼鏡での観察に飽きてきたら、ツルグレンや実体顕微鏡などを使ってより刺激的な観察を試み、楽しみましょう。

ちよつとワンポイント 授業のための+α

どうしても、虫というのは気持ち悪いと感じる大人は多いでしょう。でもそれは仕方のないことです。キライなものを無理に好きになる必要はありません。子ども達と「キモチワルイ」とか言いながらでもいいですから、でも、しっかり観察してください。「私はムシが嫌いだから、一切さわりません」などと

あからさまに嫌悪感を見せて、昆虫や節足動物を否定するような言動は避けましょう（子どものムシ嫌いは、このような後天的な要因によるらしいですよ）。そういう問題を解決する道具としては、ピンセットがあります。直にさわることなく、細かい作業を進めることができます。小さな虫を見せる方法としては、台所にあるバットがよいです。端に食用油などを塗って、虫が

逃げないようにしてあげると、観察しやすいです。



バットに土を乗せてゆっくり観察。きっと思ったより面白い出会いが。

■想像力と創造力を身につける
あそびさがし



子どもが遊ぶのにお膳立てなんて要りません。全部用意しておいて「ハイどうぞ」なんてTVゲームみたいな遊びが無くても森林は様々な道具を提供してくれます。おっとただ遊ぶだけではありません。森林が提供する材料で楽しく遊ぶのは、逞しい想像力と高い創造性が必要なのです。

プログラムの流れ

時間(目安)	内容	用意する物
0:00	<p>※冬のバージョン</p> <p>●「何して遊べそうかな？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外を眺めながら、外でどんな遊びができるのか考える。 ・用意できる道具を並べて遊びを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに使えるような道具を全て見せてみる(スコップ、ソリ、ロープ、バケツなど)
0:05	<p>●活動①遊びに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いついた遊びをグループになってやってみる。 	
0:30	<ul style="list-style-type: none"> ・飽きたら別のグループに混じって遊んでみる。 <p>●活動②こんな遊びもあるよ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪積み競争ビーチフラッグの雪上バージョンなどで盛り上がる。 ・木登りや蔓を使ったターザンごっこなどもよい。 ・また、材料さえ揃えばアイスクリームづくりをしてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・密封できる缶などの容器とそれを包む梱包材、牛乳、生クリーム、砂糖、バニラエッセンスなど
1:00	<p>●まとめのレクチャー</p> <p>「外は雪だらけでも、工夫をすることでいろいろな遊びができる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所を選ばずに色んな遊びをしてみよう。 	
1:15	終了	
1:30		

この活動のねらい

- ・想像力と創造力を育てる。
- ・様々な自然物を使って遊びをイメージする。
- ・自然物での遊びを通して新しい人間関係を構築する。

達成目標

- ・想像した事を形にできるようになる。
- ・遊びを通して周囲との関係を築けるようになる。

関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：生活科 目標(3) 内容(5)
単元名：「びゅうびゅうかぜとあそぼうよ」「ふゆさがし」

指導要領：理科 目標(3) 内容C-(2)
単元名：「水のすがたとゆくえ」

適した時期

- ・一年中
- ・冬期に外で遊ぶ習慣が乏しいことから、積雪期の学習にしてもよいかもしれない。

■ストーリーのある活動のポイント■

本体2：大人が提案する遊び

子どもでは思いつかなかった盛り上がる遊びを提案してあげましょう。盛り上がるゲーム感覚の活動などがよいと思います。

また、時間があったらアイスクリームづくりも子ども達を驚かせる活動として取り入れると良いと思います。

導入：外で遊んでみよう

外で遊ぶために子ども達を盛り上げます。色んな道具を出してどんな遊びができそうなのか聞いていきましょう。

起承
転結

まとめ：冬でも楽しく遊ぼう

準備さえしっかりすれば、野外では様々な遊びをすることができます。そんな楽しみ方ができることを提案してあげましょう。

本体1：子ども達が想像する遊び

思う存分に子ども達に遊んでももらいます。飽きる子どもがいるかもしれませんが、その子たちは別に誘って違う遊びをけしかけましょう。

ちゅっも ワンポイント 授業のための+α

雪あそびをつきつめていくと、結局はソリあそびやかまくら作りになっていきますし、それらはそれだけあそびとして完成度が高いのですが、そのあそびを「与える」のではなく、子ども達から「引き出す」プロセスが重要でしょう。

そのことから考えると、あそびそのものよりも、あそぶため

の「道具」を提示する、というのはかなりよい導入だと思います。バケツとかスコップとか木の枠など、一見雪あそびとは関係なさそうなものを見せるのがコツです。あと、単なる雪山ではなく、除雪した雪山を、冷蔵庫のように大きな四角柱に切っておく、といったような、幾何学的な形をドンと置いておくだけで、「けずりたい」「こわしたい」という衝動を引き出し、

あそびを促すことができます。この活動の大きな妨げになるのは、「寒さ」と「濡れ」です。手袋や靴の中に雪が入らないよう、布ガムテープを巻くなどして、工夫しましょう。



自分で好きなように遊ぶことは、簡単のようであらう。

森林を使う



森林と人の暮らしの接点が薄くなっている昨今、森林からの恵みを直接いただくという体験は、自分の近くにあるものだけではなく、世界の森林資源を大切に思う心につながります。

プログラムの流れ

時間(目安)	内容	用意する物
0:00	<p>●森林と人のつながり</p> <p>「人と森林はつながっている。人が関わって維持される森林と、森林があって生きていける人がある。どんなつながりなのかを体験してみよう。」</p>	
0:10	<p>●活動①森林を手入れしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林床に生えるササを刈る。 ・混んだ枝を払う。 ・木の実を拾う。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌や鋸など。子どもによっては小さな剪定ばさみなど
1:00	<p>●活動②森林からの恵み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマブドウやコクワの実を収穫してみんなで食べてみる。 ・クマザサ茶を作って飲んでみる。 ・ササやイタドリの茎で遊んでみる。(クマイザサの茎で弓矢遊び、イタドリの茎でイタドリ笛、レインスティックなど) <p>※活動1と2はグループに分かれて行ってもよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高枝切りばさみなどがあると便利かもしれない ・調理道具(コンロ、フライパン、はさみ、煎茶) ・錐、つまようじ ・剪定ばさみ、生米、紙、紐など
2:00	<p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林は手を加えることで育ち、育てては人間の生活に役立ってきた、生活に無くてはならない環境。そのつながりについて考えさせる言葉をかける。 	
2:10	<p>終了</p>	

この活動のねらい

- ・森林と自分のつながりに気づく。
- ・森林が人間にとっても有用な物であることを認識する。

達成目標

- ・森林の機能について説明できるようになる。
- ・森林が資源であることを認識し、説明できる。
- ・森林の多様性と自分のつながりを意識できる。

関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：5年社会 目標(2) 内容(4)
単元名：「かんきょうを守る」

適した時期

- ・森林の恵みを得やすいのは秋ですが、対象や内容によっては一年間楽しむことができます。

■ストーリーのある活動のポイント■

本体2：森林から恵みを頂こう

森林から楽しみを分けてもらいます。食べるだけではなくて、様々な遊びも提供してもらいましょう。そのようなやりとりを通して森林と私たちのつながりに思いを寄せます。

導入：人間と森林のつながりについて

「森林が無かったらどうする？」などの問いかけをから初めてもよいでしょう。身近なところでは紙や机が木でできていることなどから森林とのつながりに意識が向けばよいと思います。

起承
転結

まとめ：森林と人間のつながり

日本人は長いこと森林との密接なつながりを持ってきましたが、このところそのつながりも薄れつつあります。日本人が育んできた「森の文化」から学ぶことはたくさんあるはずですが、そのことに思いを寄せましょう。

本体1：森林を手入れしてみよう

人工の造林地では、経済的な問題から健全に森林が育っていないことが多くあります。森林を元気にするためにどのような活動があるのか体験します。※このような体験には「遊々の森」などの好きに使える森林があるとよいでしょう。

ちゅぽぽ ワンポイント

授業のための＋α

今の時代、ほとんどの子ども達は「環境破壊」という言葉を知っています。でも、道端のオオバコのはっぱを踏んづけただけで、まるで鬼の首でも取ったかのように「あー、カンキョーハカイしてる」などと言います。言葉だけが先走りして、その実を知る機会がない、というのが現状のようです。

だから、「林床のクマザサを刈り取っちゃいます」というと、子ども達は一様に「えっ？」という顔をします。その顔が見られたときに、チャンスです。「あ、今、クマザサを刈り取っちゃうことはカンキョーハカイだって、思ったでしょ？」なんて、その疑問をまずは受け止めながら、その意味や仕組みを説明すると面白いと思います。



木を伐る機会は、森と人の関わりを学ぶ数少ないチャンスかもしれない。

森クラフト



自然界に存在する多様な物はどれも形を成していません。しかしそれを組み合わせると、どんな物でも形にできそうです。それがネイチャークラフトの真髄。
森林の多様性に力を借りて自分だけの形を作ってみましょう。

プログラムの流れ

時間(目安)	内容	用意する物
0:00	見本クラフトの紹介 「森から拾ってきたこんな物が何に変身すると思う?」	・予め作った見本クラフト
0:05	● 材料探しの練習をしよう 見つける練習をしよう。森の中に隠れているクラフトの材料を見つけるのは簡単じゃない。まず練習。 ・カモフラージュ ・森の妖精さがし (時間がなければどちらか一方でも良い)	・カモフラージュセット
0:30	● 森で材料を探そう ・どんなクラフトを作るか思い浮かべながら森に行って使えそうな材料を探そう。	・拾った物を入れるビニール袋
1:30	● クラフトを作ろう ・材料を使って何か形のある物を作ろう。ルールは、それが「何か」を後で説明できること。	・剪定ばさみ、カッター、マジック、のこぎり、ボンド、(あれば)ホットボンドとグルーガンなど
2:30	● 森のクラフト展覧会 できたクラフトは、キレイに飾ってみんなで展覧会。 お互いの出来映えを誉めてあげる。	
2:45	終了	

この活動のねらい

- ・自然界には様々な形の物があるということに気づく。
- ・様々な形を見て、そこから何かの形を思い浮かべるインスピレーションを得る。
- ・自然界の物を使って何かを作ってみる。

達成目標

- ・自然物を使って思い通りの作品を作れるようになる。
- ・森林を構成する物について、認識を持てるようになる。

関連する教科と単元

学校のカリキュラムに対応させるための目安

指導要領：図画工作 目標(2) 内容A-(1)

活動に適した時期

秋～冬。木の実が多く、ツルが露出する秋は材料になる物が豊富。冬は木の枝を使いやすい。

■ストーリーのある活動のポイント■

本体2：森の素材を使ってクラフトを作ろう

集めた素材を使って好きなようにクラフトを作りますが、「何を作っている」という具体的な目標があったほうが学習の目的（想像から創造する）に合致します。

ねらいを別個にして、本当に好きなように作らせるのも面白いでしょう。ホットボンドとグルーガンがあるとより手軽に楽しく工作できます。

導入：自然を見る目をつくろう

カモフラージュゲームでは自然の中に隠れた物を探し出す目を養います。また森の妖精さがしは自然物に手を入れることでそれに意味を見出す練習です。楽しくゲーム感覚で練習をしましょう。

起承
結

まとめ：森のクラフト展覧会

最後に作った物をきれいに机に並べて展覧会をします。きれいに展示することが、達成感を引き立たせます。

本体1：森で材料を探そう

森林に入ると様々な物がクラフトの材料として見えそうに見えてきます。しかし採集する材料は最小限に止めましょう。また、生えている物ではなくて落ちていた物を使うなど、自然への心遣いも忘れないようにしておきます。

ちよっこワンポイント 授業のための+α

台所や、ゴミ箱に捨てられそうなものを拾い上げ、その形からいろんなものを想像するのは楽しいのですが、森林の中に落ちているものを使って、いろんなものを想像するのも楽しいものです。森林の中の物には、ほとんどといってよいほど直線的なものはありませんし、まったく同じ形をしたものもありません。

ん。そう考えると、目の前に落ちている石、あるいは木の枝、葉っぱを拾い上げる、ということは、世界でたった一つのもので出会った、と言うことができ、それはまさに一期一会、運命的な出会いであるということが出来ます。

あとは、例えば木の枝であれば、それを木の枝とは見ないで、まったく別のものに見立てられるような工夫を促すことができ

るとよいでしょう。小さな「目玉シール」を用意し、どこかに目玉をくっつけてあげると人の顔に見えてきたりします（森の妖精探し-p56）。そんな導入を通して、自然の曲線を生かした造詣あそびを進めてみましょう。